

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00354

研究課題名(和文) 倭寇小説、倭寇戯曲の研究

研究課題名(英文) Research on Wakou novels and Wakou dramas

研究代表者

遊佐 徹 (YUSA, Toru)

岡山大学・社会文化科学学域・教授

研究者番号：60240157

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題「倭寇小説、倭寇戯曲の研究」における研究成果は以下の通りである。
1、明代、清代および近代の戯曲作品(雑劇、伝奇)を網羅的に調査した結果、倭寇小説を超える数の作品を見出すことができた。これによって明代以降の文学に倭寇現象が大きな影響を与え続けたことを改めて確認することができた。2、上記作品群について作者・成立年代、テキストの状況、あらすじ等に関する情報を盛り込んだリストを作成し、自身および他研究者の研究の進展に資するベースを整備した。3、倭寇小説についてもこれまで知りえていた作品の倍の数量の作品を見出すことができた。ただし、その過半は清末小説に分類されるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題による研究成果の学術的意義や社会的意義は以下の通りである。

1、本研究は、我が国初の倭寇小説、倭寇戯曲に関する全面的な研究である。特に倭寇戯曲については倭寇小説を大きくしのぐ作品数、作品世界が存在することを明らかにし得た。2、近年、中国においては同様の研究を試みる若手研究者を散見するようになったが、本研究の実施によって、我が国の研究上のプライオリティを確保することが可能になった。3、本研究の展開によって新たに「明清通俗小説における日本、日本イメージの研究」を構想するに至り、引き続いての研究の進展が可能となった。

研究成果の概要(英文)：The following are the results of this research project "Research on Wako novels and Wako dramas". 1. As a result of a comprehensive survey of Ming, Qing, and modern drama works (Zatsugeki dramas and Denki dramas), we were able to find more works than Wako novels. 2. I have also made a list of the above-mentioned works, including information on the author, date of establishment, textual situation, synopsis, etc., to provide a base for further research by myself and other researchers. 3. We were able to find twice as many Japanese Wako novels as we had known so far. However, the majority of them are classified as novels written in the late Qing period.

研究分野：中国文学

キーワード：倭寇 倭寇小説 倭寇戯曲 明清通俗文学 異文化交流 日中交流史 日本イメージ 日本人イメージ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究課題「倭寇小説、倭寇戯曲の研究」は、従来、歴史学研究の分野で扱われてきた「倭寇」について文学、表象文化の観点から新たな光を当てるべく構想されたものである。具体的には、倭寇が登場する主に中国の文学作品 倭寇小説、倭寇戯曲および倭寇を描いた図像資料の全面的な発掘と解読を通じて、中国における倭寇そして日本、日本人イメージの形成と展開、継承の実際を明らかにすることを目指した。研究開始の段階において、白話の倭寇小説と『倭寇図巻』に関して申請者はすでに一定規模の研究を進め成果を挙げてきていたが、このたびの研究は、その経験を踏まえ、さらに資料的、時間的、空間的に研究の範囲を広げることが意図した。特に資料的には、これまでほぼ手付かずの状態にあった明代、清代の倭寇戯曲を主要ターゲットの設定し、その全体像の把握と個別作品の分析を目指した。また時間的には資料範囲を清末近代にまで伸ばし、新たな倭寇小説作品の発掘とその研究を目指した。空間的には日本、朝鮮半島、ベトナム等の倭寇の一方の当事者、倭寇の活躍地域、作品の流通地域をも対象に設定した。

研究代表者は、これまで主に中国通俗文学研究と中国近代文化史研究の2つのテーマをもって研究を進めてきた。前者に関しては、倭寇小説研究のほかに通俗文学に現われた時間意識の研究、一連の『封神演義』の研究などがある。また、後者に関しては政治文化研究、身体論的研究、時間空間の近代的変成に関する研究、写真文化研究、北京文化研究などがあるほか、清末小説研究も前者の延長線上および近代文化史研究の一環として進めており、これは本研究においても重要な項目として構想した近代中国人の前に現われた「新倭寇」としての日本・日本人像の分析に繋がるものとなった。

2. 研究の目的

本研究課題を構想した目的は、研究当初の背景においても述べたように、従来、主として歴史学、対外関係史の領域で研究が進められてきた倭寇に対し、文学研究の立場から解明のメスを入れ、明代社会に大きなインパクトを与え続けた(ピークとしては14~15世紀にかけての前期倭寇と16世紀の後期倭寇が指摘できる)倭寇が当時の人々、特に庶民階層にどのようにイメージされ、理解/拒絶されたのかを明らかにし、さらには、その体験、イメージが当時およびその後の中国人における日本・日本人像の形成と維持、変化にどのような影響を与えることになったのかについて考察する点にあった。従って、研究は端的に言えば、「テキスト研究」 個別テキストの研究、テキスト群・テキスト間の影響関係の研究、「モチーフ研究」 テキストに描かれた倭寇活動、倭寇人物、抗倭活動、抗倭人物、付随現象・事物(日本語、服装、武器、戦法等)の整理とその意味の検討、「イメージ研究」 倭寇小説、倭寇戯曲に盛り込まれた/が作りあげた日本、日本人像の考察、の3点を中心に進められることになる。

倭寇と中国文学、とりわけ通俗文学との関係についての研究は、戦前期に発表された青木正児の随筆的言及(「支那戯曲小説中の豊臣秀吉」1927)を除けば、申請者の研究(遊佐、1995、96)をもって本格的な取り組みの開始が告げられたということが出来る。近年、中国においても改めて倭寇についての関心がかつての研究の修正(中国においても倭寇のメンバーの多くが実は中国人であったことを認められるようになってきた)が進み、また中国国家博物館

に『倭寇図巻』によく似た『抗倭図巻』なる絵巻が所蔵されていることが判明したことが契機となって、申請者の研究に関心を寄せる中国人研究者が現われるようになった(万晴川「明清“抗倭小説”形態的多様呈現及其小説史意義」『文学評論』2015、浙江工商大学開催の国際シンポジウムでの紹介 2017、曾世豪『明清小説倭患書写之研究[万卷楼、2020年]等)が、我が国における精緻な倭寇研究とその蓄積を背景に研究を進めことができるという点において、申請者の取り組みは単に先駆者だからというだけではないこのテーマの研究を牽引する優位性を保持していると自負する。

3. 研究の方法

(1) 研究代表者は、これまでの研究において倭寇を描いた明清の白話小説に注目し、全9篇の作品を見出し分析を加えてきた。これによって、倭寇の記憶が生々しい、もしくは明代の倭寇のイメージが継承されていた時代の作品についてはほぼ網羅し尽くした(もちろん、倭寇が時代背景的に現われる作品はほかにもある)が、今回は近代の倭寇小説についても、その全容と内容、そしてかつての倭寇小説との関係性の解明に努めることにした(このテーマは、近代中国人の日本・日本人像の形成過程解明という意味から、研究代表者のもうひとつの研究分野、中国近代文化史研究とも密接な関係を有する)。また、以前の研究では部分的言及に留まった文言の倭寇小説についても資料収集を図る。これは明代白話倭寇小説の名編『金雲翹伝』を研究した際(遊佐 徹「小説に描かれた「倭寇」」[『倭寇図巻』、『抗倭図巻』を読む』、勉誠出版、2015年所収)に、数多くの同題材を扱った文言小説が存在し、またそれらが該書の成立に大きく影響したことを知った経験に基づく。そして、今回の研究課題の目玉となる倭寇戯曲の研究を進めるために資料の発掘、収集を精力的に進めた。倭寇戯曲については『古典戯曲存目彙考』(莊一弘 1982)、『明清時事劇研究』(李江傑 2014)、『中国古典戯曲母題史』(王政 2015)などを利用して初歩的な目録を作成しているが、テキスト自体がいずれも希覯本のため、その収集には十分な時間をかけた。さらには倭寇の襲来を受けた中国各地の地方劇のテキスト(一次資料として『中国地方戯曲集成』がある)も研究の対象とし、国内外の図書館、資料収蔵施設(国家図書館、北京大学図書館、東京大学文学部図書室、京都大学文学部図書館、山口大学図書館等)での調査を実施することを目指したが、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、国外はもとより国内機関における調査はほぼ不可能なまま研究期間を終えることとなったのは残念であった。加えて倭寇の舞台となった周辺諸地域にもテキスト発掘の努力を広げることを目指したが同様の理由で断念せざるを得なかった。

(2) 収集した資料に対する本格的な研究を進める段階に入ってから、個々のテキストを読み込み、そのなかに描かれた倭寇に関する情報(倭寇活動、倭寇人物、抗倭活動、抗倭人物、付随現象・事物(日本語、服装、武器、戦法等))を整理した。加えて、個々のテキストの成立過程、テキスト群・テキスト間の影響関係、継承関係を明らかにすることに努めた。特に小説テキストと戯曲テキストの関係は、極めて興味深い研究テーマであり、明末の通俗文学界において大きな存在感を示した馮夢龍の活動のなかにそれを探ることができた。

(3) (1)と(2)の段階で得た調査と分析の結果を以下の3点を中心にまとめた。前年度の研究を踏まえ、通俗文学、通俗文化および図像文化のなかで明代以降日本、日本人が倭寇を借りてどのように描かれてきたのかを分析。倭寇小説、倭寇戯曲の広まり、影響関係を考察した。倭寇小説、倭寇戯曲の全容の提示、すなわち明代から近代に至るまでの倭寇を描いた作品の全容をデータ化して提示した。

4. 研究成果

本研究によって得られた主な研究成果は以下のようなものである。

- (1) 遊佐 徹、明清倭寇戯曲目録(初稿)、『中国文史論叢』15号、2019年、1 - 10ページ
- (2) 遊佐 徹、倭寇戯曲作品あらすじ 明清古典戯曲版、『岡山大学大学院社会文化科学研究科 文化共生学研究』19号、2020年、55 - 67ページ
- (3) 遊佐 徹、明清倭寇戯曲目録(補)およびあらすじ、『岡山大学大学院社会文化科学研究科 文化共生学研究』20号、2021年、20 - 27ページ

以上の諸論考は上記 に関わる研究成果である。なお、現在引き続き、今回の研究によって新たに見出された倭寇小説のリストと文言倭寇小説のリストを作成中である。最終的にはそれらを統合して明清倭寇小説・倭寇戯曲目録を完成させることを目指し作業を続行中である。

- (4) 遊佐 徹、倭寇戯曲『蟾宮操』について、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』50号、2021年、39 - 50ページ
- (5) 遊佐 徹、馮夢龍と倭寇物語(上) 『双雄記』を中心に、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』52号、2021年、41 - 52ページ
- (6) 遊佐 徹、馮夢龍と倭寇物語(下) 『楊八老越国奇逢』を中心に、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』54号、2022年、17 - 30ページ

以上の諸論考は上記 、 に関わる研究成果である。なお、 、 に関しては、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で当初の研究計画において達成が不可能になった研究項目、および研究の過程で新たに見付かった研究観点などを含む研究を本研究課題の発展形として構想され 2022年に採択された基盤研究(C)「明清時代の通俗文学における日本、日本人イメージの研究」(22K00363)で継続していることを特記したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 52
2. 論文標題 馮夢龍と倭寇物語（上） 『双雄記』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 41-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/63110	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 74
2. 論文標題 フィンガーポウルと李鴻章（4）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 81-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/okadai-bun-kiyou/63067	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 50
2. 論文標題 倭寇戯曲『蟾宮操』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 39 - 50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/61331	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 20
2. 論文標題 明清倭寇戯曲目録（補）およびあらすじ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学大学院文化科学研究科文化共生学研究	6. 最初と最後の頁 20 - 27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/61538	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 19
2. 論文標題 倭寇戯曲作品あらすじー明清古典戯曲版	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科『文化共生学研究』	6. 最初と最後の頁 55 - 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 15
2. 論文標題 明清倭寇戯曲目録 (初稿)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国文史論叢	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遊佐 徹	4. 巻 54
2. 論文標題 馮夢龍と倭寇物語 (下) 「楊八老越国奇逢」を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 17 - 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/64294	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------